

令和5年度 世田谷区立池之上小学校 学校関係者評価委員会からの提言(学校関係者評価委員会報告書)

本年度、本委員会は学校関係者評価の結果に基づき、保護者、児童、地域の3者の分析結果について池之上小学校へ提言します。

【学校関係者評価委員会】 ◎委員長  
◎松尾 弘：元同窓会会長  
馬場 浩彰：元保護者  
森 奈弓：青少年委員  
都崎 裕子：学校協議会委員  
飯田 紀子：池之上青少年交流センター長

◆ 調査の概要 ◆

1、実施日  
① 児 童 令和5年11月28日から12月12日  
② 保護者 令和5年11月28日から12月12日  
③ 地 域 令和5年11月28日から12月12日

2、実施・回収の方法  
① 児 童 教室で実施（WEBにて回答）  
② 保護者 すぐーでのデータ配信、WEBにて回答いただき、回収  
③ 地 域 学校協議会委員・学校関係者の方々へ配布し、回収

3、回収率(%) 下表

① 保護者							
	全体	1年	2年	3年	4年	5年	6年
R5	52.9	70.2	50.0	46.3	45.5	53.1	51.9
R4	45.5	53.6	51.9	43.1	35.4	55.6	29.5

② 地 域		
	全体	
R5	60.0	
R4	60.0	

4、結果概要の捉え方  
① 肯定派 「A、とても思う」「B、思う」の合計(%)  
② 満足度が非常に高い 肯定率が80%以上  
③ 満足度が低い 肯定率が65%未満の項目  
④ 周知徹底の必要あり 「E、わからない」が15%以上の項目

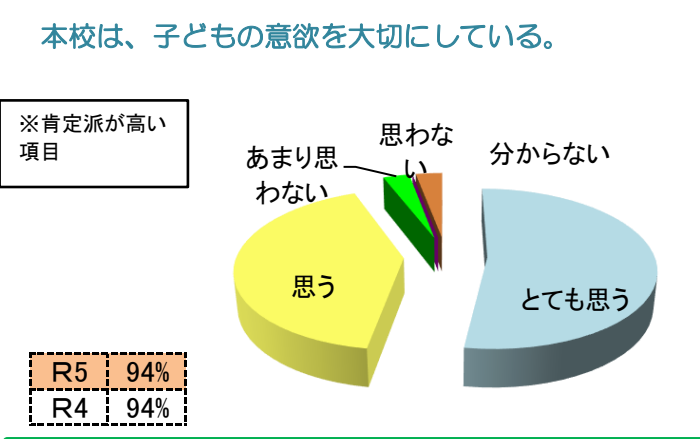
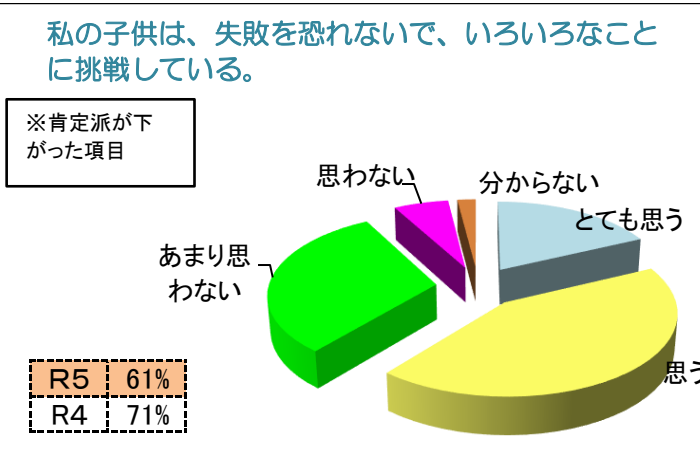
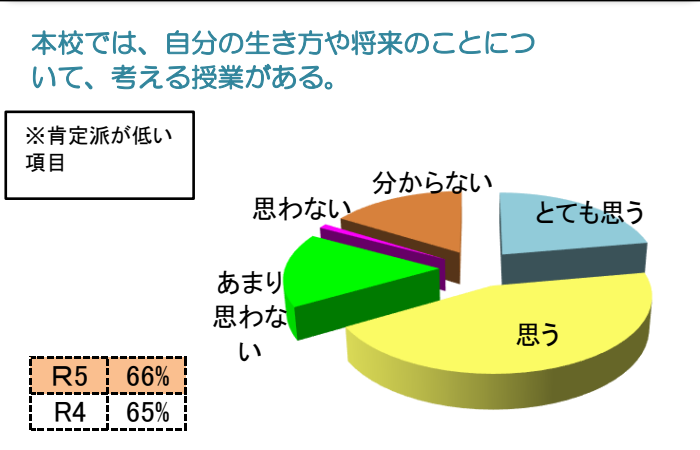
評価アンケートにご協力いただき、感謝申し上げます。

全体的傾向から見ると  
保護者の肯定派は、43設問中27項目(昨年度31項目)、  
児童の肯定派は、30設問中19項目(昨年度18項目)、  
地域の肯定派は、20設問中7(昨年度5項目)  
※右記のグラフは、肯定的回答の上位3項目、否定的回答の上位3項目から抜粋したものや、前年度より大きく変化している項目について掲載している。

**結果概要からの全体考察や提言**  
昨年度よりも7.4%回収率が高くなったが、回収率は52.9%とまだ低い数値である。昨年度に続き、保護者はwebでの回答であったが、保護者への周知の工夫をしながら、回収率を上げていくことが必要であると感じている。  
今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策も緩和され、保護者や地域の方々に多数来校いただくことができた。地域の皆様に児童の様子を直接見ていただく機会もコロナ禍以前と同様に近いところまで戻すことができた。学校公開も年間10日実施することができた。また、おたよりやHP学校日記の更新もすることで、保護者や地域の皆様に児童の様子が伝わるようにした。  
今回の学校関係者評価の結果をもとに、次年度もよりよい池之上小学校の教育ができるように職員一丸となって努力していく。

<提言>  
○評価アンケートの回収率に関して、8割から9割の回収率を目指したい。webでの回答になったことが影響していることもあると思うが、周知の方法を工夫することで、回収率を上げることができると考える。  
○挨拶について、挨拶運動などを通して、児童自身また地域の評価が上がっている。こうした取組を保護者にも発信して、保護者にも子供たちの頑張りを認めてもらえるようにしてほしい。  
○それぞれのアンケートの「わからない」という回答を減らすために、アンケートと一緒に、学校の考え方や取組についての説明を配布してはどうだろうか。また、学校の様子についてホームページなどで今後も発信してほしい。

保護者アンケートの結果より

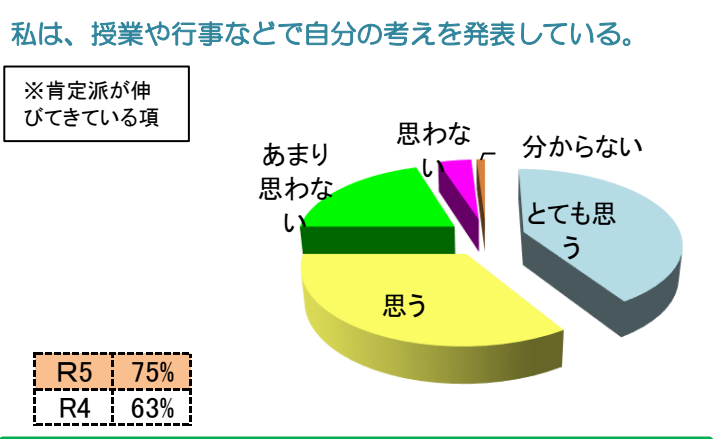
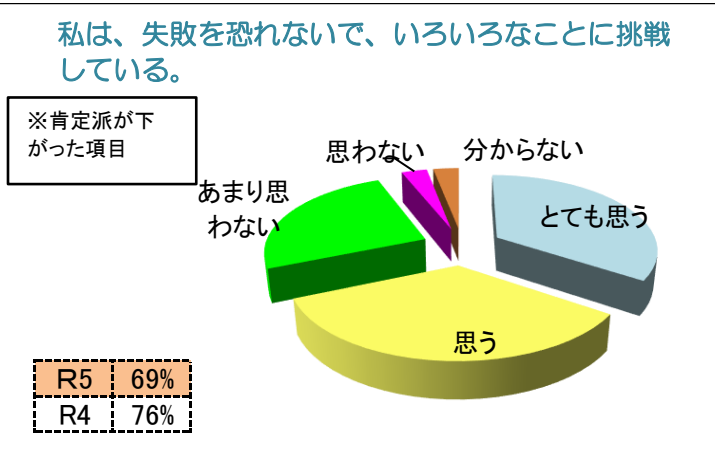
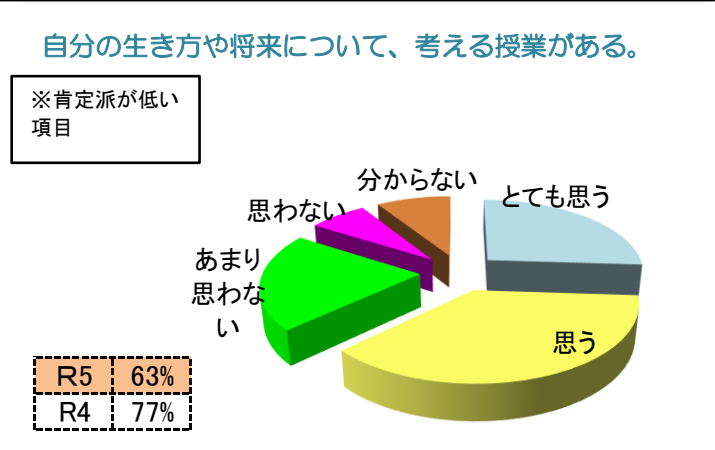


◆小学校でのキャリア教育の考え方  
本校では、他者、社会、自然、環境等の中での体験的な活動を重視し、自分と向き合い、他者に共感することや社会の一員である個人の能力、発達の特性等の多様性を理解し、規範意識を育み、自らのよさに気づき、自分の生き方や将来に夢がもてる「キャリア・未来デザイン教育」を推進している。子供たちのよさを高め、豊かにするには、ほかの学年の様々な年齢の子供たちとかかわったり、保育園幼稚園や他の小学校、中学校、特別支援学校などの子供たちとかかわったりすることを重要視していく。

◆池之上の子どもたちの実態  
「私の子どもは、失敗を恐れないで、いろいろなことに挑戦している。」は昨年度より10ポイント低い評価となった。行事での取組などで子供たちが頑張っている姿や成長している様子を伝えていきたい。

◆学校の取組  
<提言>  
○行事などを通して、頑張っている子供たちの姿から「子どもの意欲を大切にしている」の高評価につながったのではないかな。今後も子どもたちのために子どもの意欲が発揮される実践を実施していってほしい。  
○保護者の「私の子どもは、失敗を恐れないでいろいろなことに挑戦している。」については今年度も低い結果となった。児童の同項目も肯定評価76%(R4)→69%(R5)と肯定派が下がっているの、来年度も「せたがやキャリア・未来デザイン教育」を推進するとともに、保護者への周知も工夫してほしい。

児童アンケートの結果より



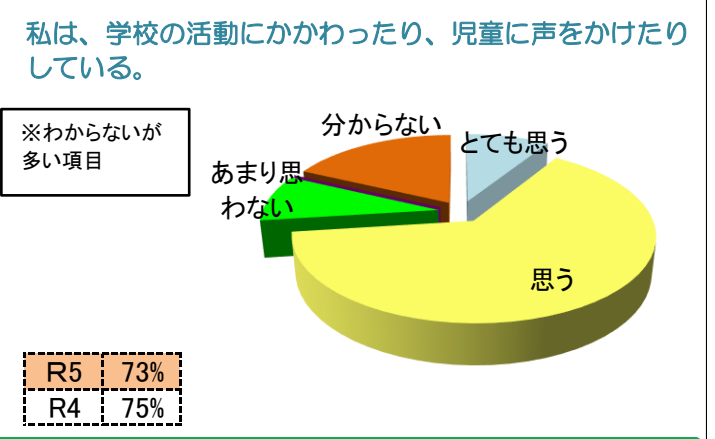
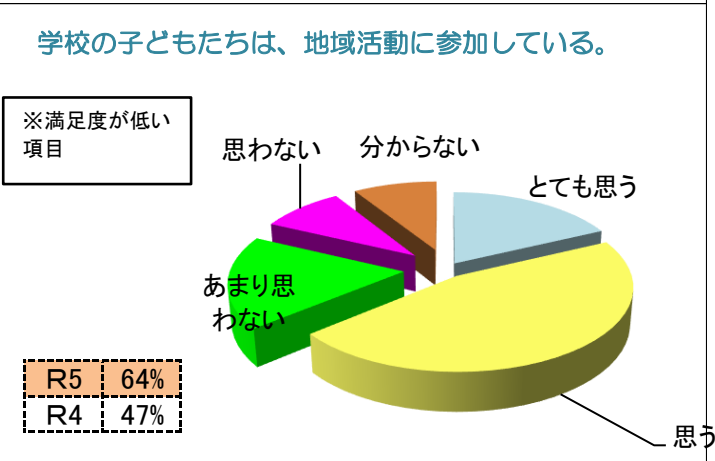
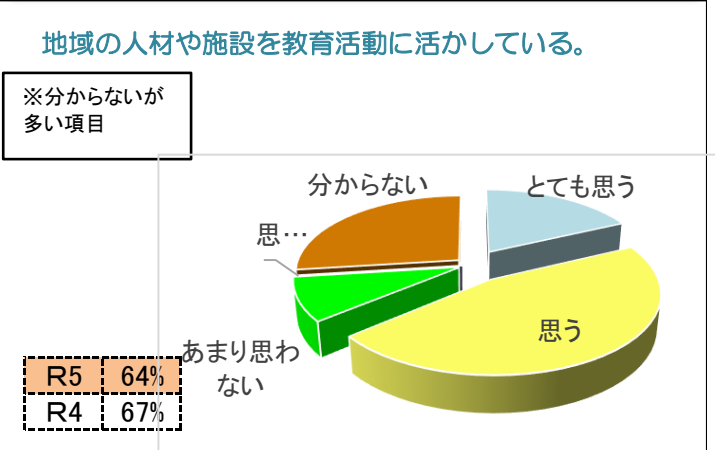
◆キャリア・未来デザイン教育の実感  
自己肯定感という視点での「自分づくり」と人間関係という視点での「かかわりづくり」を豊かにしていく。これを発達段階に応じた育ちで捉え、  
低学年:「好きなこといっぱい できることいっぱい 学校って楽しいな」  
中学年:「自分と友だちと みんないっしょに」  
高学年:「挑戦する やりぬく 夢・希望を広げる」 以上の目標を設定する。

◆子どもの自己認識  
子供たちは、学校行事や日常生活の中で、本当に様々なことに挑戦しながら、自信を付け、堂々と「自分の考えを発表している。」というところにつながっていると考える。しかし「失敗を恐れないで」というところが子供たちにとっては、「とても思う」「思う」と言いきれない部分なのではないかと考える。

◆授業や行事での子ども自身の取り組み  
全教科領域で、対話的な学びを推進し、コミュニケーション能力を高めていく。

<提言>  
○キャリア・未来デザイン教育については、児童の「目標をもって努力している」が81%の肯定評価であることを考えると、子どもたちにとって「これがキャリア教育の授業」という認識がないだけかもしれない。引き続き子どもたちの自信につながるように、取り組んでいただきたい。  
○「私は、授業や行事などで自分の考えを発表している。」では、ハンドサインなどを取り入れたり、先生方の研究の成果もあり、子どもたちの肯定派が増えている。いろいろな意見や間違ってもいいという雰囲気、更に大切にしていきたい。

地域アンケートの結果より



◆地域との連携  
来年度2学期には校舎の移転となり、地域との連携を深めていけると考えている。様々な活動でお力添えをいただきたい。

◆子どもたちの現状  
現在学区域外の校舎に通っていることもあり、地域の行事等について知る機会も少なくなっている現状がある。参加できるように周知方法等工夫することも必要であるとする。

◆地域の方々の思い  
「私は、学校の活動にかかわったり、児童に声をかけたりしている。」だけではなく、その他の結果でも、肯定評価が低下傾向にある。直接関わる機会を増やしていくことで、地域でも子どもたちを育てていけるように、地域の皆様と連携していく。

<提言>  
○情報発信に力を入れていることは評価できる。アンケート項目にはない地域の声を、自由意見等を活用して聞き取る工夫をしていくべきである。  
○7(5)「私は、学校の活動にかかわったり、児童に声をかけたりしている。」や(6)「私は、社会のルールを子どもたちに身に付けさせている。」の肯定評価が低くなっている。コロナ禍の影響や、現在学区域外に校舎が移転している、地域との関わりが減っていることが原因であろう。来年度は、交流できる場が増えていくのではないだろうか。周年行事や落成式もあるので学校と一緒に考えていく。

本校では、自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

22      44      16      1      16

私の子供は、失敗を恐れないで、いろいろなことに挑戦している。

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

18      43      31      6      2

本校は、子供の意欲を大切にしている

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

53      42      3      0      3

自分の生き方や将来について、考える授業がある。

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

26      37      21      7      9

私は、失敗を恐れないで、いろいろなことに挑戦している。

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

34      34      25      3      3

わたしは、授業や行事などで自分の考えを発表している。

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

41      34      20      4      1

地域の人材や施設を教育活動に活かしている。

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

18      46      9      0      27

学校の子どもたちは、地域活動に参加している。

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

18      46      18      9      9

は、学校の活動にかかわったり、児童に声をかけたりしている。

とても思 思う      あまり思 思わない 分からない

9      64      9      0      18

## 1、「思いやりのある、優しい子供」の育成

- ・「他者を大切にする」「気持ちのよいあいさつのできる」児童の更なる育成を図るため、全校朝会や学年朝会を通じ、繰り返し指導を充実、発展させていただきたい。特に、助け合いや異学年交流・花の子交流活動での学年に応じた役割を身に付けられるよう指導していただきたい。

- ・自他の尊重を意識させ、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に繋げるため、「言葉遣い」にも指導を広げ、他者を用いぬる温かい言葉の涵養を図っていただきたい。

## 2、「ものごとをよく考え、向上しようとする子供」の育成

- ・落ち着いた学習環境を保証し、その環境が、子供の学力を向上させることに繋がるため、ユニバーサルデザインの視点を中軸にした授業内容、展開の工夫を継続発展してさせていただきたい。併せて、全学年が共通して取り組めるような学びや生活のルール「花の子スタンダード」を更に充実発展させていただきたい。

## 3、「体を丈夫にし、明るいい心をもつ子供」の育成

- ・早寝・早起き・朝ごはんの大切さを学校保健委員会だけでなく、様々な機会を通じて、啓蒙していただきたい。保護者、地域と学校との連携・協力を充実させていきたい。

- ・今年度も行っている「花の子体力づくり」や始業前の校庭遊び奨励など、次年度も発展、充実させていただきたい。

◆令和元年度の目指す学校像として、「子供自身が『自己実現』できる学校」を位置付け、取り組んできている。評価アンケート(保護者)「私の子供は、自分らしく表現している」の肯定派が昨年度、今年度とも90%近いことに比べ、子供自身は、「授業や行事などで自分の考えを発表している」の肯定派が60%に届いていない。また、「失敗を恐れないで、いろいろなことに挑戦している」の肯定派も昨年度から8ポイント増加はしたものの、67%と他の設問と比べて、極めて低くなっている。

◆評価アンケート(児童)「池之上小学校が好きである」の肯定派が昨年度の78%から今年度92%と大きく伸びていることから、子供たちは、学校生活自体は、充実していると捉えられる。

＜提言＞

子供たちは、楽しみにしている学校行事をもち、そこでの活躍のチャンスもあると捉えている。授業の内容は、よくわかり、授業の楽しさを感じている。保護者も同様に、子供たちが楽しみにしている行事があり、内容も充実していると捉えている。課題は、そのような充実した学校生活の中で、子供たちが自分のよさや可能性を安心できる環境の中で発揮していけるかである。

授業の充実改善を継続、発展させていただきたい。特に、子供が失敗の中からも学べる、自身のよさを発揮できるという環境、雰囲気を教職員と保護者、地域が連携協力して創り上げていっていただきたい。

## ◇学校関係者評価1年間の取組◇

1学期・・・第1回 学校関係者評価委員会開催

2学期・・・第2回 学校関係者評価委員会

○学校関係者評価アンケート学校独自項目の検討

11月・・・学校関係者評価アンケート児童、保護者実施

12月・・・区教育委員会から学校関係者評価アンケート集計結果報告

3学期・・・学校だより「花の子」1月号で

学校関係者評価アンケート集計結果の速報値報告

1月、2月・・・第3、4回 学校関係者評価委員会

○学校関係者評価アンケート結果や学校公開参観、教職員へのヒアリングから、「学校関係者評価報告書(概要版)」、「学校関係者評価委員会からの提言」を検討、作成